公開・非公開の別	■公開・□部分公開 □非公開

令和５年度　第１回浜松市立図書館協議会　会議録

１　開催日時　　令和５年６月２６日（月）　午後２時００分から４時００分まで

２　開催場所　　浜松市立中央図書館　大会議室

３　出席状況

委員：岡田　建志、遠藤　浩子、髙木　みゆき、三宅　栄子、
　　屋名池　倫子、三津間　洋子

欠席：清水　友理子、永田　浩介

事務局：
文化振興担当部長　嶋野聡、
中央図書館長　枝村賢美、
中央図書館館長補佐　内藤真澄、
図書館管理グループ長　佐藤文彦、
図書館サービスグループ長　鈴木早苗、
調査支援グループ長　吉田佐織、
資料・情報グループ長　鵜飼康生、
天竜図書館長　笹竹由美子、春野図書館長　森下和之、
佐久間図書館長　藤本勝治、水窪図書館長　宇井智洋、
龍山図書館長　鈴木忠、
中央図書館　森田ひとみ主任、増原愛海、北村麗凪

４　傍聴者　　０人（一般：０人、記者：０人）

５　議事内容　　（１）図書館事業について　令和４年度事業報告
（２）図書館評価について
（３）図書館事業について　令和５年度事業計画
（４）その他

６　会議録作成者　図書館管理グループ主任　森田ひとみ

７　記録の方法　　発言者の要点記録

８　会議記録

１　開会
２　会長あいさつ
３　文化振興担当部長あいさつ
４　議題

（１）図書館事業について　令和４年度事業報告

鈴木図書館サービスグループ長が説明
◆資料１　令和４年度事業報告

質　問　意　見	
三　宅　委　員	資料１「令和４年度事業報告」１頁に示された「資料数」一覧には、廃棄や処分された冊数は含まれているのか。
鈴　木　Ｇ　長	含まれていない。
三　宅　委　員	多くの除籍済の本を、利用者にもらっていただけるよう提供しているイメージがある。年間で除籍された本はどれくらいあるのか知りたい。
鈴　木　Ｇ　長	除籍件数について、令和４年度全館の除籍冊数は５６，７４２点である。この中でも雑誌の件数が突出して一番多い。こうした雑誌は３年や５年で保存期限が切れた後に除籍をし、リユースフェアなどで提供をしている。
三 津 間 委 員	調べ学習コンクールに関する講座を、多種多様な形で開催してくれているのは大変ありがたい。小・中学校では自身でテーマを決めて探究活動を行っていく総合的な学習の時間があり、小・中学生にとって調べ学習は関心の高いものである。調べ学習コンクールを視野に入れている子は、関心のあるテーマについて本を使って調べようとするが、その手順が分かりにくいということがある。以前、浜松市立図書館のホームページに載っていたワークシートを見たことがあるが、非常に分かりやすいものだった。講座は定員があり受講を希望しても打ち切られてしまうといったことが起こり得るが、オンライン配信やアーカイブ配信、個別相談会などを設けることによって、子供たちの調べたいという欲求に広く応えてくれているのはとてもありがたいことである。 調べ学習コンクールの応募作品で審査を通ったものについては、審査をするのが難しいくらい中身が掘り下げられているものが多く集まっていると聞いている。このような講座を行うことは、義務教育学校にとっては的を射た市立図書館の取り組みであると言える。 浜松市立中央図書館業務アドバイザーの鈴木正之先生が講師を務めた「こども郷土研究講座」も、参加者数から非常に関心が高かったということが窺える。 また高齢化社会ということもあり、１６頁に記載のある「図書館で学ぶいきいき健康講座」は非常に関心が高いと思われる。前回の利用者アンケートでも、親族や家族の病気を調べるためにレファレンスサービスを利用し、求めていた情報に辿り着くことができたといった感想があったと記憶している。さらに介護や人の内臓機能といった健康に関する展示などは、長寿となられた多くの方の関心のあるところである。そういったところにアクセスできる講座があるのは非常にありがたい。 協働センターにも図書資料があるということは以前から聞き及んでいたが、資料の１頁目には、はっきりと資料数が記載されている。これは登録をしているということだと思うが、協働センターの資料はどのように交換をし、どのように貸出返却を行っているのか。
鈴　木　Ｇ　長	協働センターは近くにある図書館が担当となり、定期的に蔵書の入れ替えを行っている。その際は貸出ではなく、所蔵館自体を協働センターへと変更をする手続きをしている。資料の１頁にあるように、協働センターの蔵書数を一括で算出することができるのはこのためによる。しかしながらオンラインで結ばれているわけではないため、運用は各協働センターに任せている。貸出方法についても協働センターごとの方法で行っている。資料の入れ替えは年に２、３回行っている。 近年の傾向として、施設のＵＤ化に伴いエレベーター設置のためのスペースにするなど、多くの施設で図書コーナーが縮小または廃止されている。

遠　藤　委　員	ネット社会に生きる若い子育て世代にとっても、生の声で教わるというのは貴重な体験である。パパ・ママ絵本講座やおでかけ絵本講座、あかちゃんのための絵本講座等が再開され、回数も増えていることは喜ばしい。保育園、幼稚園の先生方も読み聞かせは十分に行ってくださっているが、おでかけおはなし会は新しい刺激となるため、ぜひ今後も行っていただきたい。
髙　木　委　員	駅前分室や流通元町図書館、引佐図書館、細江図書館で図書館スタッフのおすすめのこの一冊という企画展示を見た。読書会活動や読み聞かせをしている者にとって、選書はとても悩ましく、読んだ本の感想や子供たちの反応など会員同士で情報交換をしているところであるが、「これがおすすめである」とプロである図書館司書の方に言ってもらえると非常に助けになりありがたい。
遠　藤　委　員	「本が泣いています」という展示があるが、保育園でも本を乱暴に扱わないように、本が泣いているという表現をよく使っていた。この展示も、本を大事に扱うようにと一般の利用者に伝えるのが目的なのか。
鈴　木　Ｇ　長	すべての開催館の展示を確認しているわけではないが、企画書を確認した範囲では、傷んで返却され、次の利用者に提供できず毀損除籍となってしまった状態のものをとっておき、あえてお見せするものである。このような状態にならないよう、大切に使っていただくことを啓発する取り組みであると理解している。
遠　藤　委　員	期待通りの企画であることが分かり良かった。
岡　田　委　員	１頁の資料数について雑誌は冊数であると聞いたが、月刊誌では年間１２冊ずつ増えていくという計上方法で良いか。
鈴　木　Ｇ　長	おっしゃる通りである。
岡　田　委　員	図書館の所蔵の規模を把握するにあたり、どれくらいのタイトルを継続的に購読しているかという情報を知りたい。資料数には古いタイトルの雑誌でまだ除籍していないものも含まれていると思うが、今現在の動向として継続購入のタイトル数があるとより分かりやすいと考える。今後可能であれば検討願いたい。 ６頁に記載のある、中・高校生向けの情報活用講座は３回実施をして、参加人数が合計１８人ということか。
鈴　木　Ｇ　長	実人数を計上して、１８人という数字になっている。この講座は、第１回から第３回まで連続した内容となっており、全３回を通じて１つのテーマを掘り下げることができるようになっている。また、それぞれの回で別の講師の方をお呼びしているので、１回のみ受講しても独立していて分かりやすい内容となっている。中には第２回目のみの受講であったり、第１回目と２回目のみの受講であったり等、様々な形で参加された方がいる。

岡　田　委　員	中学生、高校生は自分でもどんどん取り組んでいける年代でもあるので、このような講座はとても有意義であると考える。人数制限をかけていたのかもしれないが、もう少し参加人数が増え中学生、高校生がより取り組んでいける形となると望ましい。 別件で、９頁にある「企画展示」の「実施日、期間」の記載で「常設展示」「通年」という二通りの表現があるが、この違いは何か。
鈴　木　Ｇ　長	これは企画書で使用している表現をそのまま使用しているものである。中には令和４年度のみの展示ということで、通年としている館もあると思うが、常設展示とほぼ同じ意味合いで使用している館がほとんどである。
岡　田　委　員	常設展示は期間限定の展示よりは長く展示するが、時々入れ替えをしているという認識で良いか。
鈴　木　Ｇ　長	駅前分室の常設展示である「たのしいえほん」を例にとると、駅前分室は雑誌や文庫本など限られた資料を置いている状況でありとても狭く、基本的に児童サービスは行っていない。しかしながら子供向けの本もある程度置きたいということで、分室の一角を絵本コーナーとし、資料を入れ替えながら本を置いているというように聞いている。
	（２）図書館評価について 佐藤図書館管理グループ長が説明 ◆資料３　図書館評価について ◆資料４　図書館評価の方法について ◆資料５　令和４年度浜松市立図書館評価指標 ◆資料６　浜松市立図書館評価（令和４年度）案
三 津 間 委 員	「浜松市図書館ビジョン」を拝見した際、実現できたらすごいと思うことがたくさん書いてあったと記憶している。すべてが即座に実現可能というわけではないと思うが、それに限りなく近づいているということを、この評価を見て感じる。例えば、乳幼児連れのご家族が気兼ねなく来館できるよう、他の来館者に配慮や協力を願う時間帯を設けたことはその取り組みの一環ではないかと考える。 市民の方は忌憚なく意見を述べてくれるため、中にはコンビニで返却ができるようにならないかなどハードルが高いご意見もあるが、そういった要望の代替案ともいうべき取り組みを図書館が行ってくれており、年々それが増えているのはとてもありがたいことである。 先ほど話のあった、中・高校生対象の「情報活用講座」は、始まって何年目になるのか。
鈴　木　Ｇ　長	今年で３年目である。

三 津 間 委 員	「情報活用講座」は続けていけば周知をされていくので、ぜひ今後も開催していただきたい。 資料を読んで感じたことだが、保育園や幼稚園、小・中学校への働きかけは充実をしている。私が教員をしていた小・中学校で言えば、図書館補助員の研修や支援パックの提供、さらには中央図書館内に設置されている学校図書館支援センターで相談にのってくださったり、調べ学習コンクールを開催したりしてくれている。しかしながら高等学校との繋がりはとても弱い。高校生を対象にした講座の周知はあるが、高等学校と直接つながっているものはないと感じる。浜松には市立高等学校があるので、まずは今以上に連携ができないか、模索してもよいと考える。市立高等学校にも司書がおり、またビブリオバトルを行ったという話を聞いたことがある。そういったところから組織的に働きかけができると、高校生の利用者カード登録率に繋がるようなパイプができあがるのではないだろうか。 小・中学校は図書館が組織的に働きかけを行ってくれているので大変に助かっている。現状として、学校図書館補助員が学校図書館を半分運営しているようなもであり、その補助員のレベル向上が、すなわち各学校図書館を充実したものにするということに繋がっている。高等学校も同様に、何か働きかけができると良い。
三　宅　委　員	「いかす」は「浜松市図書館ビジョン」の中で「毎日の生活を潤すために図書館機能を活用します」と明記されている。その上で「評価指標」の１から３の指標は「いかす」という指標であることが理解しやすいが、「４障がい者向け資料の延べ利用者数」についてはこの文言だけでは分かりづらいのではないかと感じる。かたりべの会に所属していた私にとっては、これは声のライブラリーという組織に関連することであろうと想像ができるが、それを知らない者にとっては、この指標はイメージしにくいのではないだろうか。 また「つくる」は「浜松市図書館ビジョン」で「わたしたちの図書館を、未来に向けてつくります」という宣言であった。今「つくる」の指標として掲げられている「利用者カード有効登録率」について、利用者は図書館の機能を使っている立場であり、なぜこの「つくる」という指標に含まれているのか少し疑問である。
枝　村　館　長	「いかす」の「４　障がい者向け資料の延べ利用者数」については、「浜松市図書館ビジョン」体系図中の、市民の図書館未来宣言「いかす」の部分に目指す方向性が４項目掲げられており、その４番目が「多様なニーズに対応した環境づくり」となっている。親子にとって、そして高齢世代や障がいのある人が利用しやすい環境作りに努めることをうたっているため、図書館評価指標でも項目として掲げているところである。しかしながらご指摘の通り、関連としては分かりづらい部分もあるかと思うので、必要に応じて、項目の場所の見直しや整頓を検討していく。
三　宅　委　員	高齢者に関する項目は、「いかす」「はぐくむ」など複数箇所に割り振られているため、捉えにくい。もう少し見やすいとありがたい。
屋 名 池 委 員	学校図書館補助員の研修会への参加が増えているのは大変喜ばしい。研修の内容は具体的にどういったものなのか。図書に関することや、整理に関することなのか。

鈴　木　Ｇ　長	研修会は年度によって内容が異なる。選書に関することもあれば、新聞記事をファイリングし図書館資料として活用するといったことを先進事例から学んだり等、内容は多岐に渡る。講師の選定については、静岡県子供読書アドバイザー浜松連絡会所属の子供読書アドバイザーが毎年調べて、講師の候補をあげてくれている。このアドバイザーは静岡県の研修を受け認定されるもので、ほとんどの方が学校図書館補助員かその経験者である。
屋名池委員	学校図書館を利用する子の中には、授業に参加しづらかったり等の理由で図書館が基地のように安心できる場所になっていることがある。図書館業務に関する研修以外にも、子供たちとの関わり方やコミュニケーションに関することも学べる機会があると良い。
岡　田　委　員	昨年１０月以降の協議会の中で、尺度と達成率の関連付け方を見直してはどうかと提案したところである。それを踏まえた今回の資料を拝見し、達成率とその評価点はこれでちょうど良いと考える。 委員が作成する外部評価には、末尾にある評価基準Ａ、Ｂ、Ｃを見て図書館評価案に記されていることについてどう考えるか、今後の課題についてこういったことが考えられるといったことを記載すれば良いのか。
佐　藤　Ｇ　長	資料４の３頁（オ）に記載のとおり「自己評価結果の内容は適切か」「評価指標の設定が適切か」「アウトプットのみならず、アウトカムと関連付けての評価をする」という３つの観点から、図書館の出した評価が正しいかをご判断いただくものである。また、その評価の内容や課題につき記載をお願いしたいと考えている。 「外部評価用紙」の項目ごとに評価を記載する欄があるが、２頁下部にある評価基準を参照の上、ＡＢＣのいずれかを記入いただきたい。図書館が作成した自己評価が妥当であるかを踏まえ、判断、ご意見をお願いしたい。
岡　田　委　員	資料４の３頁（オ）は、図書館の自己評価を妥当と考えるかどうかという委員の評価についての記載でよろしいか。また評価用紙の末尾に記載されたものは資料３の２頁にある２（２）「評価基準」であり、図書館の事業自体に関する評価指標という認識で良いか。
佐　藤　Ｇ　長	お見込みの通りで、評価用紙の末尾には資料４の３頁（オ）の評価の視点の方を記載すべきであった。
岡　田　委　員	資料４の３頁（オ）の評価の視点はここに記載のある通りとしつつ、ＡＢＣは具体的にどの程度であると考えたらよいか。（ウ）の表は図書館の自己評価の基準であると思われるが。
佐　藤　Ｇ　長	例えば、評価点が４とすると図書館の評価はＡになるが、ご自身が３．５であるとお考えであればＢにしていただく等、基本的には（ウ）の表に準じた形でご判断いただければと考えている。

内　藤　補　佐	目標自体の設定が甘いといったことや、目標は甘いが達成はできているといったようなことなども読み取っていただけるとありがたい。
岡　田　委　員	今回の評価用紙は７月７日までの提出期限ということであるが、欠席した２名には詳細を伝えたうえで回答をしてもらったほうが望ましいと考える。対応をお願いしたい。
	（３）図書館事業について　令和５年度事業計画 鈴木図書館サービスグループ長が説明 ◆資料２　令和５年度主要事業計画
岡　田　委　員	資料２の７頁にある電子図書館事業に「国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の提供」とあるが、昨年あたりから個人でも登録をすればこのサービスが利用できると記憶している。ここでは図書館向けとあるので、利用希望の方が図書館に来館し、職員が付き添ってサービスを行うという認識でよいか。
吉　田　Ｇ　長	おっしゃる通りである。国立国会図書館に個人で登録をした場合と受けられるサービスは同じであるが、そういった環境にない方もいる。浜松市立図書館では、中央図書館と城北図書館でこのサービスを提供しているので、来館いただき、ご利用いただいている。浜松市立図書館の利用者登録が条件となるが、印刷まで可能なサービスとなっている。個人で登録できる人はご自身で使うのも可能であり、また資料数もかなり増えてきているため、来館いただければ目的の資料を探すところから職員がお手伝いすることもできる。
三　宅　委　員	「外国語の通訳付きブックスタート」は、日本の子供たちと一緒に外国の方が入って行うものなのか。それとも、その言語を話す方に対象を絞って行われるものなのか。
鈴　木　Ｇ　長	外国にルーツのある親子、あるいはその言葉を母語としている子供を対象としている。今は永住される方も多く日本語も達者であり、日本語の通常のブックスタートでも不自由なく参加される方は多い。しかしながら、中には母語の保持を意識されている方もいる。昨年度は中国語のブックスタートの参加1組という実績であったが、需要があれば引き続き行っていきたいと考えている。
三　宅　委　員	日本人の子と外国人の子が一緒に参加した方が良い影響があるのではないかと考えるが、そのような機会はあるか。
鈴　木　Ｇ　長	外国語のブックスタートを行うときには、その前にその言語によるおはなし会を行うこととしている。このおはなし会は日本人の方もネイティブの方も参加できるものである。以前は、そのおはなし会の外国人の参加状況を見て、適宜ブックスタートへの参加のお声掛けや確認等を行っていた。現在は、コロナ下の影響で始めたブックスタート申込制を引き続き行っているため、ブックスタート参加者については事前に把握できるようになったが、今も変わらず、事前におはなし会を行い、日本人の子と外国人の子がともに参加できる機会を設けている。

三　宅　委　員	資料２の７頁にある「シニアサービス事業」について、今までは「一般向け講座・講演会等」という項目に入っていたと思うが、独立させたのか。
鈴　木　Ｇ　長	高齢者福祉課との共催企画においては、講座を始める前に高齢者福祉課の担当者が、高齢者に関係する制度や取り組み等の説明を毎回行っている。そのため、高齢者がいるご家族や興味関心のある若い方も受講対象になり得る。しかしながら、当事者本人に参加いただく方が情報として一番届きやすいとの考えから、申し込みは概ね６０歳以上の方として受付を行っている。もちろんそれ以外の方でも希望があれば参加はできるようになっている。
三　宅　委　員	ますますシニアの人口比率が増してくるので、シニアサービス事業を手厚くしていただけると良い。
屋名池委員	「１６ミリフィルムライブラリー」とはどのようなものなのか。
鈴　木　Ｇ　長	１６ミリフィルムライブラリーは城北図書館の事業であり、１６ミリフィルムの団体貸出等を行っている。貸出を行う際、借り受ける団体に映写技術の資格を持っている方がいる場合にはフィルムだけを、資格をお持ちの方がいないのであれば技術者も一緒に派遣をするといったサービスである。
鵜　飼　Ｇ　長	１６ミリフィルム自体がとても古いものであり、上映会を行っていた時代の名残のようなものである。今新しいものが作られているというものではなく、古いものを、扱える技術をもった方たちが使ってくれている。昔の記録や教育関係のフィルムが多い。
屋名池委員	技術者の方は、ボランティアで来てくれているということか。
鈴　木　Ｇ　長	おっしゃる通りである
髙　木　委　員	「シニアのための楽しい音読教室」はとても嬉しいサービスである。コロナ下で一人暮らしの方は特に家にいると話す機会がなく、電話がかかってきたときに声がでなかったという話を聞いたことがある。近くの図書館に出かけて、こういった講座という場で声を出す機会を得ることは健康のためにも、とても良いことだと思う。ぜひ今後も進めていただきたい。
鈴　木　Ｇ　長	この音読教室は、今のところ中央図書館とはまゆう図書館のみで実施している。昨年度ははまゆう図書館で企画したが、コロナ感染拡大により中止になったと聞いている。中央図書館でも様子を見ながら再開したいと考えている。以前、２年ほど続けて開催したときは、非常に好評であった。しかしながら、参加される方はとても大きく声を出すので、そのあたりの兼ね合いを見ながら、定員を何名にするか等の検討を行っていきたい。
髙　木　委　員	希望者はとても多いと思われる。２館のみで実施ということだが、地域の図書館で行ってくださるともっと出かけやすくなるのではないか。

三　宅　委　員　　３頁に記載の「情報ＢＯＸ研修会」について詳細を教えていただきたい。

鈴　木　Ｇ　長　　情報ＢＯＸは、浜松市立小・中学校の学校図書館に導入されている図書館システムのことである。この情報ＢＯＸを使いこなすことで、様々な業務を迅速かつ効率的に行うことができる。しかしながら、学校図書館補助員は各学校１名で勤務をしているため、使い方等の情報が得にくい環境である。そこでまずは年度変わりに行う年次処理について困らないよう、毎年２月頃にこのシステムを提供している会社から１名、システムに詳しい方を講師として会場にお呼びし、使い方についての講義をしていただいている。中央図書館の職員はこのシステムにはあまり関わりがないため、会社のエンジニアの方に説明をお願いしている。

三　宅　委　員　　中央図書館は主催をするという役割なのか。

鈴　木　Ｇ　長　　中央図書館に学校図書館支援センターという機能があり、そこに配属になっている指導主事が中心となって、企画、実施している。

岡　田　委　員　　最後に、委員におかれては７月７日金曜日までに、外部評価用紙に記入の上、事務局まで返信をするようお願いしたい。

（４）その他

なし

５　閉会

９　会議録署名人　岡田　建志　　会長

髙木　みゆき　委員

令和５年６月２６日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いないことを確認した。

令和　　年　　月　　日

署名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿